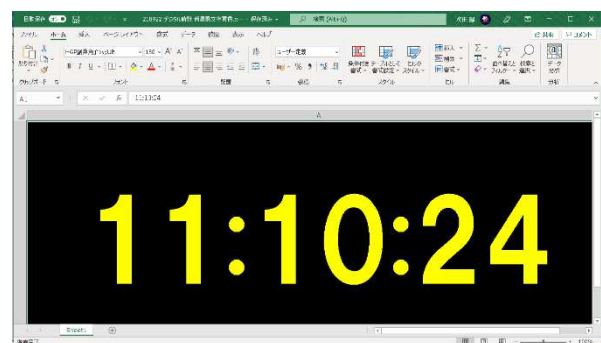
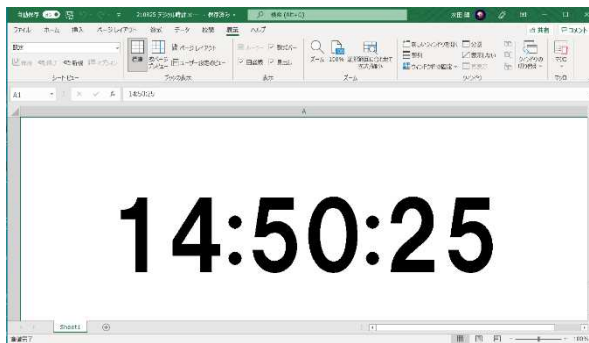
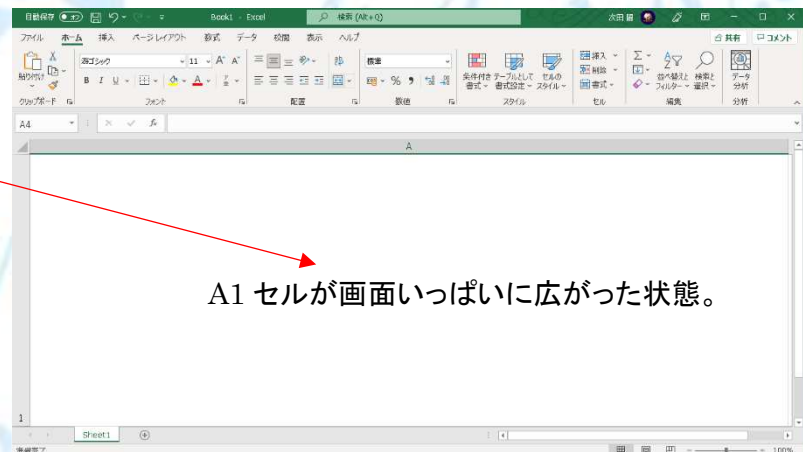
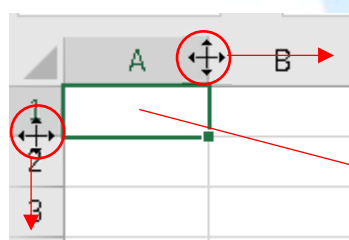


A1セルを画面いっぱいにしてデジタル時刻表示



1. 保存用フォルダーを作成。
2. SunnyG ダウンロードページからデジタル時計用マクロをダウンロードして、保存用フォルダーに保存。
3. Excel を起動。セル A1 をクリック。A 列と B 列の境目でポインターが十字の矢印になったら右端までいっぱいを広げる。次に1行と2行の境目で同様十字の矢印が変わったら画面したいっぱいに広げる。

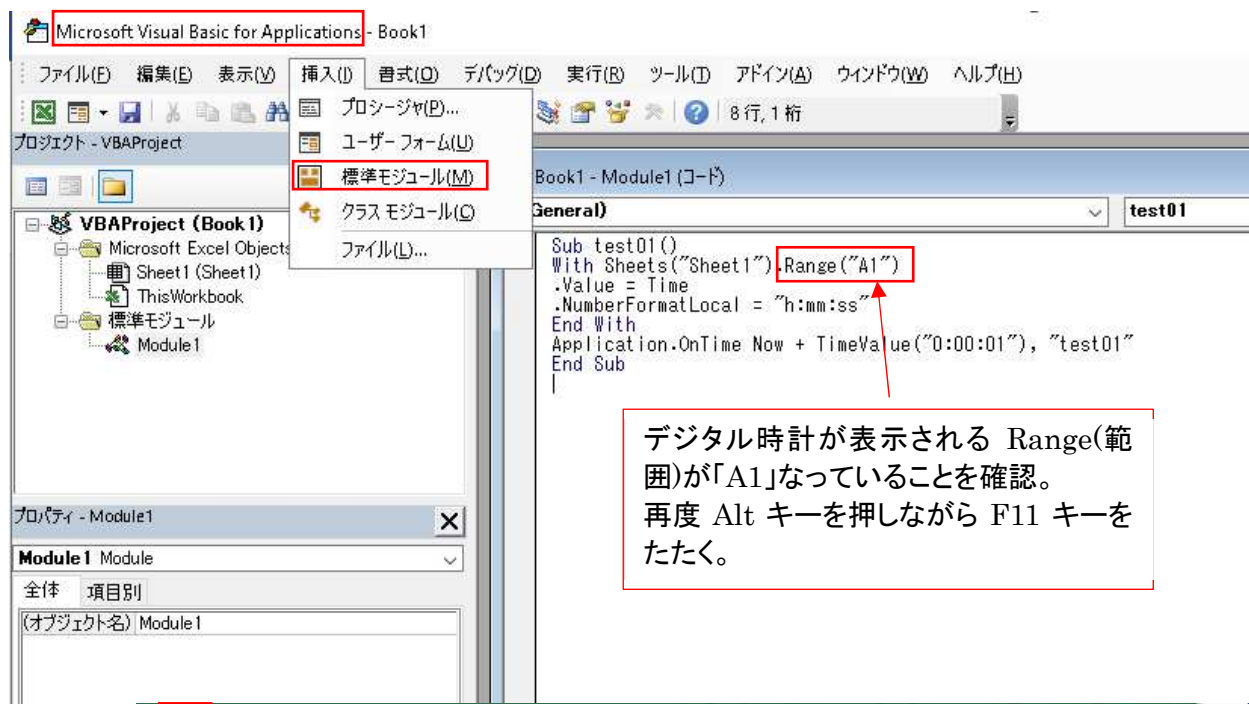


4. 保存用フォルダーにダウンロードして保存しておいた「デジタル時計用マクロ」を開き全文を範囲選択、コピーする。

Excel 「デジタル時計用マクロ」

```
Sub test01()
  With Sheets("Sheet1").Range("A1")
    .Value = Time
    .NumberFormatLocal = "h:mm:ss"
  End With
  Application.OnTime Now + TimeValue("0:00:01"), "test01"
End Sub
```

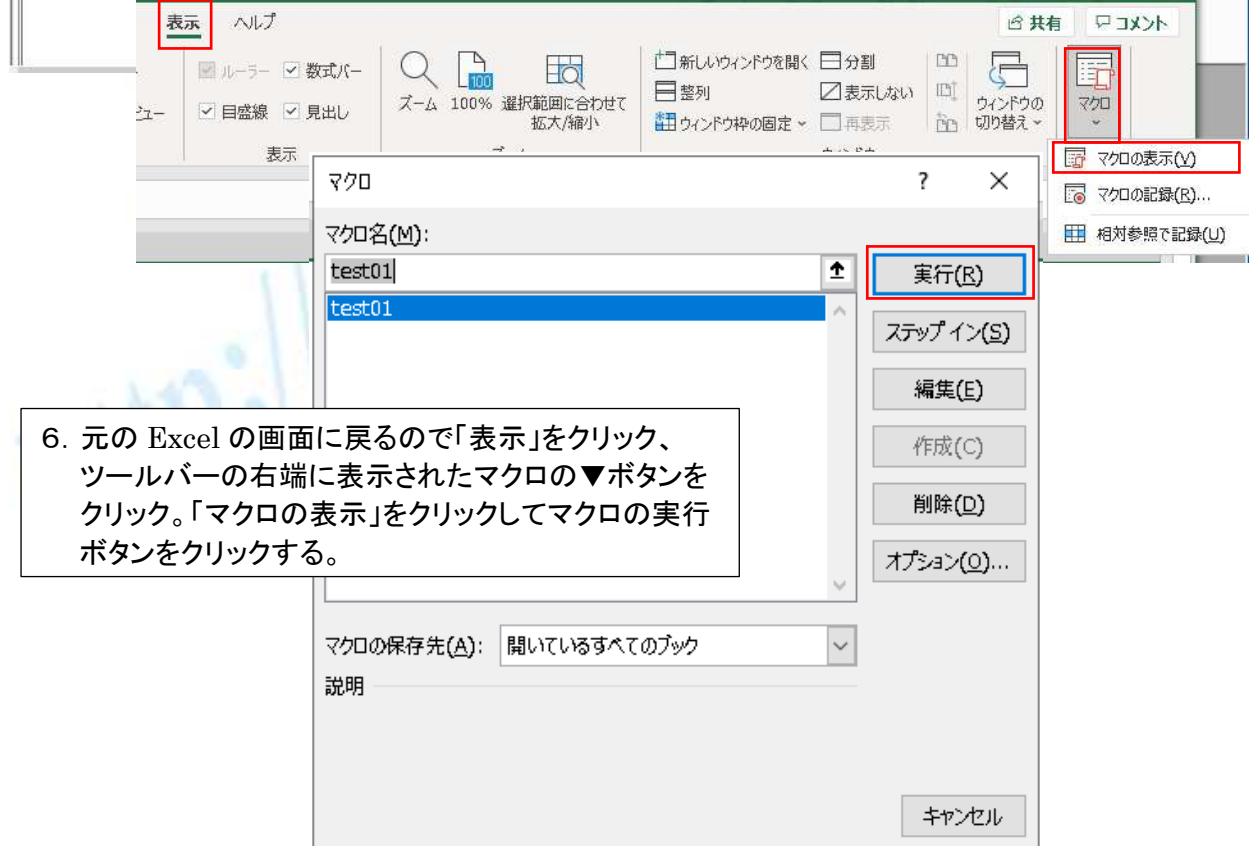
5. 画面いっぱいを広げた Excel の A1 セルをクリックしておいて Alt(オルト)キーを押しながら F11 キーをたたいて、Microsoft Visual Basic for Application を表示させる。次に「挿入」タグをクリック、「標準モジュール」を選択クリックしてマクロを書き込む画面が出たらコピーしておいたマクロ全文を書き込み画面に貼り付ける。



The screenshot shows the Microsoft Visual Basic for Applications editor. The 'Insert' menu is open, and 'Standard Module (M)' is selected. The code in the editor is as follows:

```
Sub test01()  
With Sheets("Sheet1").Range("A1")  
.Value = Time  
.NumberFormatLocal = "h:mm:ss"  
End With  
Application.OnTime Now + TimeValue("0:00:01"), "test01"  
End Sub
```

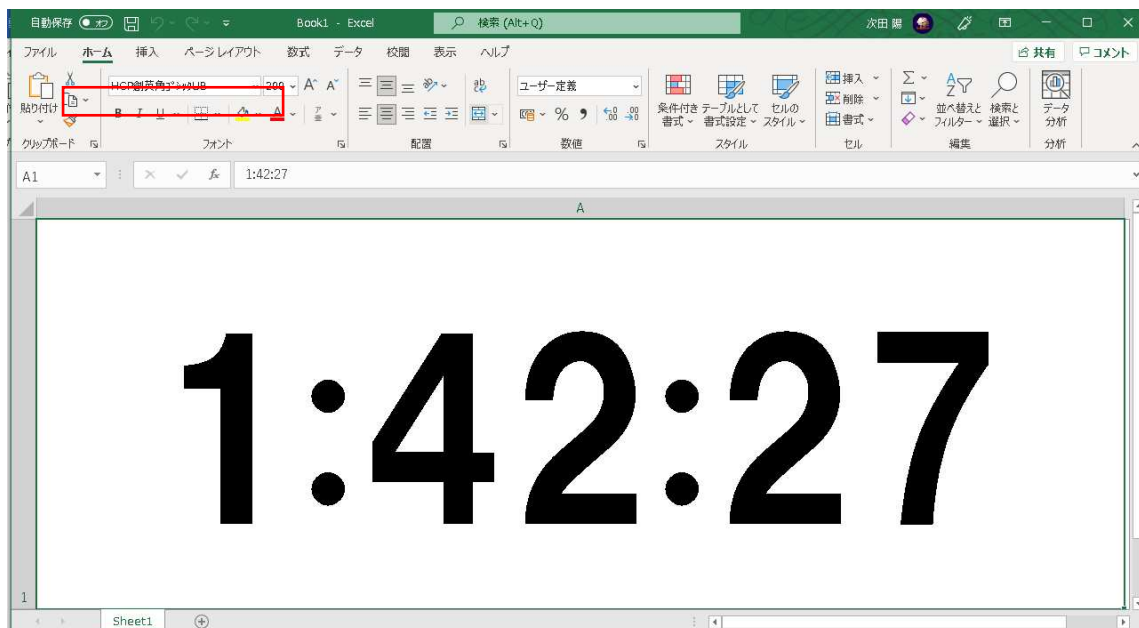
A red box highlights the `Range("A1")` in the code. A callout box points to it with the text: デジタル時計が表示される Range(範囲)が「A1」になっていることを確認。再度 Alt キーを押しながら F11 キーをたたく。



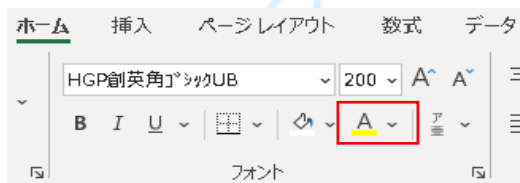
The screenshot shows the Excel ribbon with the 'Macros' button highlighted. The 'Macros' dialog box is open, showing the macro name 'test01' and the 'Run' button highlighted.

6. 元の Excel の画面に戻るので「表示」をクリック、ツールバーの右端に表示されたマクロの▼ボタンをクリック。「マクロの表示」をクリックしてマクロの実行ボタンをクリックする。

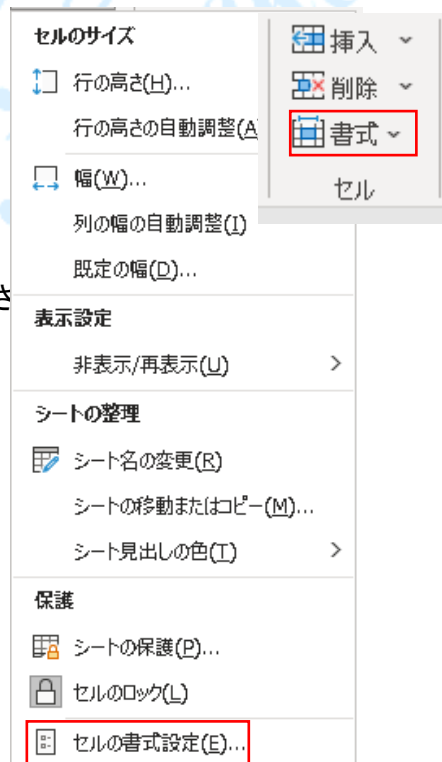
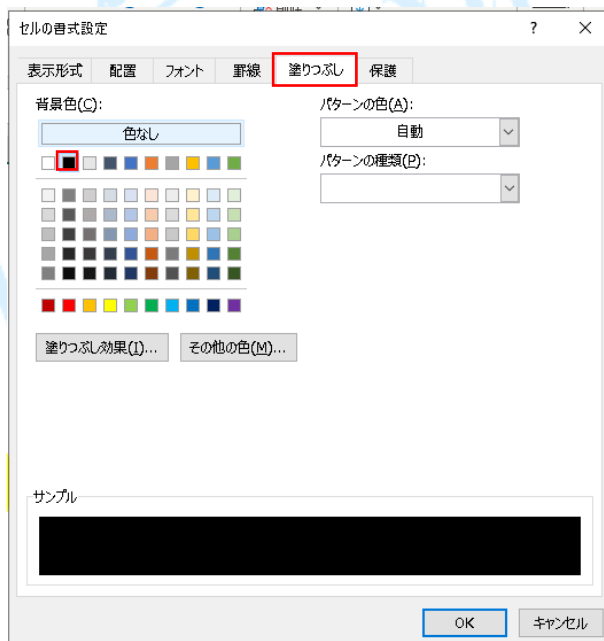
7. ホームタブをクリックしてフォントを「HGP 創英角ゴシック UB」とし、フォントサイズを「200」に設定
サイズ 200 は選択リストにないので既存サイズを削除して半角で打ち込む。



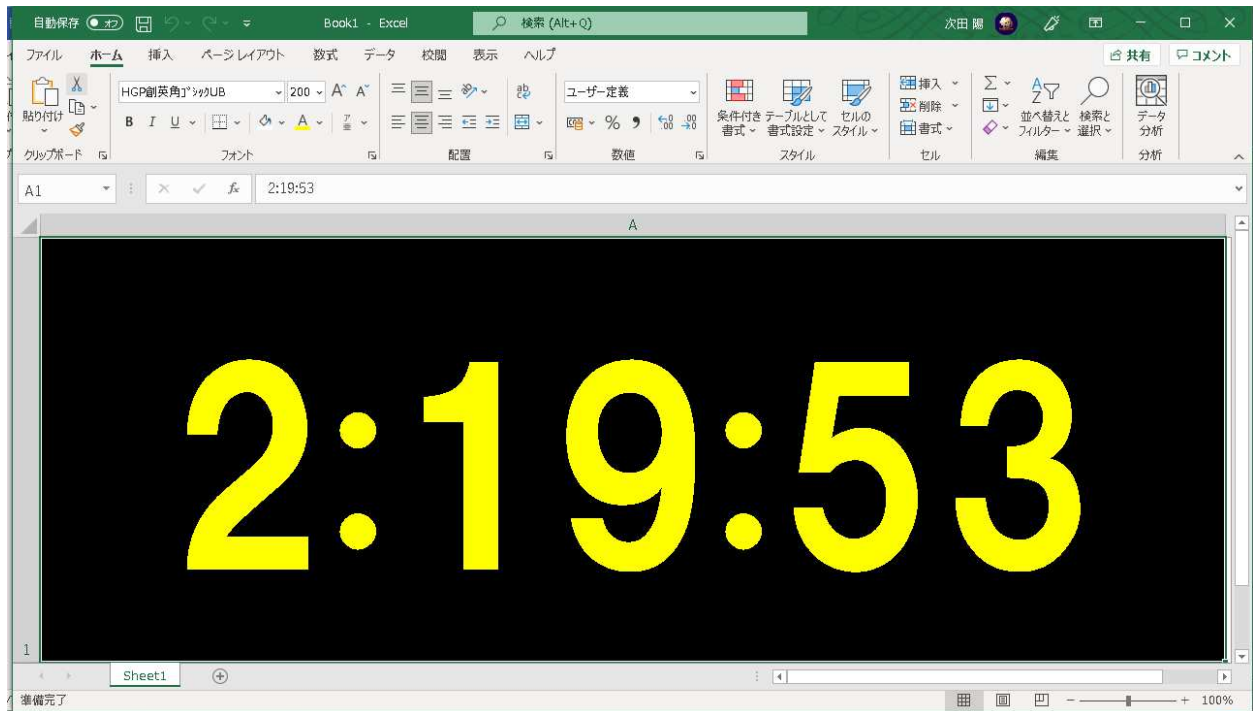
8. セルの背景色と文字の色の変更



A1 セルをクリックしておいてフォントの色を黄色に設定。続いてセルの書式の▼ ボタンをクリック、表示さ最下部にある「セルの書式設定」をクリック。



黄色文字で黒色背景のデジタル時計に変更。



9. 上記8と同様手順でセルの背景をカラー付きのパターンに変更することも可能。

以上